

「面縄中学校の上面縄シオンマイカ踊り伝承活動の取組」

1. 学校名	伊仙町立面縄中学校
2. 学年・人数	全校生徒 66人
3. 日時・場所	<p>(1) 練習の日時・場所 令和7年9月8日(火)～11日(木) 面縄中学校教室（唄の練習） 令和7年9月12日(金) 面縄中学校体育館（踊りの練習）</p> <p>(2) 発表の日時・場所 令和7年9月28日(日) 面縄中学校運動場</p>
4. 伝承・活用に 取り組んでいる 郷土芸能、伝統 行事、伝統工芸 品について	<p>(1) 名称 上面縄シオンマイカ踊り（うえおもなわしよんまいかおどり）</p> <p>(2) 由来 大正時代から、伊仙町上面縄集落に伝わる郷土芸能であるシオンマイカ踊りは、富山県八尾町の「越中おわら節」（風の盆）をルーツとしている。大正時代に京都の紡績工場で働いていた上面縄集落出身の若い男女が、徳之島に帰省した際に、習い覚えた唄と踊りを若者たちに伝承したことに始まると伝えられている。その後、男女の掛け合い唄という曲調が、地域の生活風土に溶け込み親しまれ、戦前・戦中・戦後を通じて多くの先人の努力により、越中おわら節とは趣を異にする上面縄集落独特の形で今日まで伝承・継承されており、唄と踊りがクライマックスに達する活発な舞いと、五穀豊穡を願う踊りとして上面縄の地に深く根付いている。</p> <p>(3) 構成等 歌詞が28番まであり、曲調は島唄と共通している。太鼓の音に合わせて、男性が歌う上の句に女性が下の句をつけ、男女が掛け合いながら歌い踊る。ゆったりしたテンポで始まり、曲が進むにつれ、テンポが速くなり、曲の終盤で、歌も踊りもクライマックスに達する。</p>
5. 文化財伝承・ 活用の取組にお いて地域との連 携や工夫した点 等	<p>学校運営協議会の中で、「学校が地域に開かれ、保護者や地域との連携を強化していく」という目的を共有し、伝統芸能を継承する方法について熟議した。また、体育大会を発表の場に位置付けるとともに、体育大会当日、保存会の方々の参加を呼びかけ、一緒に踊ることによって、地域の中で生きる生徒が伝承していく一人一人であるという意識付けを図った。また、校区内の小学校の運動会でも、上面縄シオンマイカ踊りを踊ることから、中学生にも小学校の運動会での踊りへの参加も呼びかけ、複数人参加した。</p>
6. 取組の様子 （練習状況、発 表の場等）	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>練習風景</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>体育大会</p> </div> </div>
7. 感想・意見 （参加児童生 徒・保護者・ 保存会・教員 等）	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 郷土芸能である「シオンマイカ」を練習することができて楽しかった。 ・ 地域の行事（十五夜）でも地域の方と一緒に踊ることができた。 <p>【保存会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次世代に伝え残していくことが大切であり、上面縄の伝統芸能を伝承する機会を作ってもらえて良かった。特に今年は、唄の練習もできたことが良かった。